

地域人材ネット

変化に対応できる「サバイバル力」の備わった多様な人
材・地域づくり

扇谷 ちさと (せんにに ちさと)

一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団 理事長



○ 登録者情報

所在地

東京都港区

略歴

1982年4月～1990年9月 スタジオワークダンス設立・代表(高知県高知市内・ダンス指導、よさこい振付指導)
1990年9月～1993年5月 ティップトップにジャズダンス・エアロビクスインストラクターとして勤務(東京都内)
1999年10月～至現在 (夜さ来いチーム) TOKYO夜さ来いCOMPANY設立・代表(現会長)
2002年7月～2014年1月 ドリーム夜さ来い祭り実行委員会設立・実行委員長
2014年1月～至現在 一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団設立・理事長
2017年3月～2022年3月 2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会 理事
【受賞歴】2023年2月 一般社団法人東京都レクリエーション協会より功労賞(レクリエーション功労者)を受賞
【その他】港区観光大使、高知県観光特使、高知県よさこいマイスター、YOSAKOI JAPAN全国連絡協議会 副会長、関東高知県人会[常任幹事]、首都圏高知市の会[幹事長]、土佐史談会[関東支部理事]等も現在務める

著書・論文等

【著書】よさこい魂 踊れば夢は叶う(扇谷ちさと著/幻冬舎刊)
【寄稿】「ふるさと大使かわら版」令和5年新春号 ウイズコロナ時代までに至る「ドリーム夜さ来い祭り/よさこい鳴子踊り」の世界展開について(扇谷ちさと寄稿/全国ふるさと大使連絡会議発行)、「文化高知」2013年5月号 高知にありがとう。(扇谷ちさと寄稿/公益財団法人 高知市文化振興事業団発行)、「関東高知県人会 会報誌 きてみや」2021年4月号 コロナ禍での「ドリーム夜さ来い祭り」の世界展開(扇谷ちさと寄稿/関東高知県人会発行)等

○ 変化に対応できる「サバイバルカ」の備わった多様な人材・地域づくり

取組の内容

「ドリーム夜さ来い祭り」とは、性別・年齢・障害・国籍・分野・文化を問わずにだれもが参加できる、よさこい鳴子踊りを中心としたユニバーサルなオリジナル舞踏の祭典です。2002年以来、東京お台場を中心に毎年11月初旬に開催し、2022年で21回目を迎えました。お台場エリアの賑わい創出として手作りの実行委員会として祭り創設。現在は東京都共催で丸の内など都心を代表するエリアに会場を拡大し、「東京の顔」となる祭りに進化しました。国内のみならず、2013年・アメリカ・ニューヨークを皮切りに、以後シンガポール・マレーシアなど世界各国で開催・普及し、「日本各地域の舞踏文化の輸出」として世界展開を図っています。2019年より祭りとしてSDGsのゴールに貢献する社会課題解決に導く持続可能な祭りとしてバージョンアップ。(例:オレンジリボン運動との連携・啓発活動を通じてSDGsゴール16に貢献)

2020以降のコロナ禍に入っても中止することなく、参加者4,000名規模でのリアル開催・無観客会場+ライブ配信に加えドローン・VRの先進技術を活用して祭りのDX化を図りました。参加者のメンタルヘルス増進と疲弊した関係地域の活気を取り戻すきっかけをつくりました。さらに入院していても参加・体験できる祭りを目標にしております。これまでリアル会場で参加できない方も含めて全国の祭りに先駆けてドローンやVRを活用したリアル空間・仮想空間のどこでも・どなたでも参加・体験できる祭りは、近年の急激な社会変化に対応した「新しい観光」のあり方に寄与しました。



ドリーム夜さ来い祭りinニューヨーク
タイムズスクエア会場の開催風景



ドリーム夜さ来い祭り お台場エリアでの
よさこい鳴子踊りワークショップ風景

実績

- ・2002年11月(第1回ドリーム夜さ来い祭り・以下回数のみで呼称)東京お台場で約2,000名の参加者で初開催
 - ・2013年4月「ドリーム夜さ来い祭りinニューヨーク」をタイムズスクエアで初単独開催(観客10万人)
 - ・2018年6月 シンガポールで「ドリーム夜さ来い祭りinシンガポール」を初開催(観客5万人)
 - ・2019年11月(第18回)の参加者 約6,000名・観客約110万人(8会場)
- 【コロナ禍での実績】
- ・2020年11月(第19回開催)参加者 約3,000名 リアル無観客会場+ライブ配信で開催(お台場・丸の内4会場)
 - ・2021年11月(第20回開催)の参加者 約3,500名・ライブ配信+VR観覧体験 約5万名(お台場・丸の内4会場)
 - ・2022年11月(第21回開催)参加者 約4,000名・リアル観覧会場+ライブ配信+VRライブ配信のハイブリッド開催(お台場・丸の内4会場)
 - ・2023年1月(第21回後夜祭)参加者 約400名 最新鋭大型4面LEDウォール舞台のバーチャル空間で開催(東京タワーの大型eスポーツパーク内等2会場)

工夫した点や苦勞した点

祭りの開催運営は、地域を舞台にあらゆる方々の力で成り立って一人ではできないプロジェクトの代表例で、時代を映す鏡でもあり、「人財」の宝庫です。東京、ニューヨーク、シンガポールの開催はいずれも資金ゼロからスタートし、応援者を地道に繋ぎながら進めてきました。その時勢にあった形で進化させ、例えば祭りのデジタル化もその有効な手段として活用しました。今後もますます人とのご縁を大切に、相互の信頼関係とその広がりが持続可能な事業の発展の鍵となると思っております。

ひとことPR

不可能を可能にする、どうしたら実現できるか？を信条に、直球で時には変化球で楽しみながら進めてきました。その結果としてサバイバルしていく「体質」ができたのだと思います。地域を横断した事業を行うためには民間・行政同士の相互信頼が大前提です。これまで培ってきた経験を日本各地の皆様のお役に立てればこれほど嬉しいことはありません。

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	○ その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	○ DMOとの連携
地区防災計画	○ インバウンド対応
BCP	民泊・農泊
避難所運営	地域おこし協力隊の推進
○ 感染症対策	○ その他 デジタルを活用した観光振興
○ その他 人との繋がりにおける危機管理	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
○ 滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	空地・空家対策
○ 地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
○ その他 海外からの関係人口創出	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
結婚・出産・子育て支援	人材研修
働き方改革	ふるさと教育
子どもの貧困対策	地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	○ 地域ブランディング
官民連携(PPP・PFI)	○ メディア活用策
自治体間連携	○ 効果の把握・評価
住民参加	○ その他 地域と海外との交流促進
その他	

関連ホームページ

一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団公式サイト	http://www.dreamyosacoy.jp
港区観光大使(港区ホームページ)	https://www.city.minato.tokyo.jp/citypromotion/kankotaishi.html
内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局	https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/effort/pickup/pickup11.html

連絡先

メールアドレス	info〔アットマーク〕dreamyosacoy.jp		
---------	-----------------------------	--	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。